

## (2) 西区における地域包括ケアの推進について

### ① 令和4年度 of 取組み

#### 自己選択・自己決定を支える環境づくり

##### ◆「ACP」市民への周知・啓発

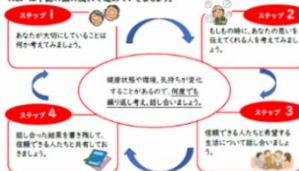


これからどんな人生を歩んでいきたいですか？  
自分の望む人生を自分らしく最期まで歩むために、  
「私」の思いをまとめて、知ってもらおうことから始めましょう。

ACP (アドバンス・ケア・プランニング) とは  
もしもの時のために、自ら望む意思について、前もって考える  
取り組みです。

##### ACP の進め方

ACP は下記の図の流れで進めていきます。



#### 西区独自 簡易版エンディングノート作成

- ・簡易版エンディングノートを用いた地域での啓発
- ・多職種と協働した市民啓発講座を実施
- ・市政だよりや HP での周知



##### ◆専門職との連携

- ・「在宅高齢者支援のためのチェックシート」マニュアルの活用
- ・自己選択・自己決定支援に関連した多職種連携研修の実施

#### 健康づくり・介護予防等

##### ◆よかトレ実践ステーションの創出

- ・西区薬剤師会と協力した、よかトレ実践ステーションの創出、介護予防啓発

##### ◆フレイル予防

- ・講座の開催やホームページ等による普及、啓発

##### ◆ICT を活用した健康づくり・介護予防事業

- ・離島の健康づくり、コロナ禍での健康づくりのため ICT を活用した



##### ◆認知症啓発等

#### ”オール西区” で取り組む 地域包括ケアシステム

##### ◆超高齢化を支えるわがまちサミット

- ・校区特性に応じて、「防災」「認知症」「見守り」等をテーマに開催【8校区程度/年】
- ・特に「防災/災害時の要支援者支援」については、関係各課と連携し、積極的にアプローチ

##### ◆「校区福祉のまちづくりプラン」作成支援

- ・「わがまちサミット」の開催に合わせプラン作成を支援
- ・校区の取組みの「見える化」をサポート

##### ◆事業所ネットワーク支援

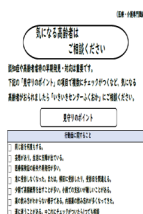
- ・交流会や研修会等を通じ、活動の活性化を支援



#### 虚弱高齢者の早期発見・早期支援

##### ◆西区版！「見守りポイントシート」の活用

- ・「見守りポイントシート」を利用した関係機関との連携強化
- 金融機関、コンビニ、公共機関への周知啓発



## 自己選択・自己決定を支える環境づくり

### ◆「ACP(アドバンス・ケア・プランニング)」市民への周知・啓発

#### (1) 目的

自己選択・自己決定を支える環境づくりとして、単身高齢者の増加や高齢者の意思決定・備えの必要性に対応するため、市民一人ひとりが元気なうちから人生の最終段階までの過ごし方を自ら考え準備できるよう、ACP の周知・啓発に取り組む。

#### (2) 取組み状況

##### ① 普及啓発

	令和3年度	令和4年度
ACP チラシ配付	→	
エンディングノート配付	→	
HP や市政だより掲載	9/1 市政だより掲載 簡易版を HP に掲載	→
ノート簡易版作成・配付	→	
		エンディングノートと共に配付 住民向け講座で配布
住民への普及啓発		→ 校区住民に ACP 講座を実施

##### ② 研修会、講演会等

- ・多職種連携研修会や終活講座等の実施
- ・校区衛生連合会と共催で ACP に関する講座を実施

##### ③ 居宅介護支援事業所巡回

年度	内容
令和3年度	・37 か所を訪問し、ACP と意思決定支援の周知及び課題抽出のため、アンケートとヒアリングを実施
令和4年度	・43 か所を訪問し、アンケート結果を共有し、ACP に関する情報提供と取組みについて検討

## ◆専門職との連携(多職種連携の取組み)

### (1)普及啓発(市民啓発)

#### ① 終活講座

令和3年度			
日時	場所	内容	参加人数
令和4年 1月27日(木)	西保健所 ハイブリッド	「在宅医療と在宅介護について」 講師:きむらしろうクリニック 木村 史郎 氏	16人
令和4年 1月28日(金)	西保健所 ハイブリッド	「エンディングノートの使い方」 講師:福岡市社会福祉協議会 終活サポートセンター	15人

令和4年度			
日時	場所	内容	参加人数
令和4年 10月4日(火)	西保健所	「なにが大切? 終活カードゲーム」 講師:西区地域保健福祉課	24人
令和4年 10月11日(火)	西保健所	「知って得する! 住まい・介護のハナシ」 講師:三丁目の花や 森本 剛 氏	23人

#### ② その他の講座

令和3年度			
日時	場所	内容	参加人数
令和4年 1月19日(水)	周船寺公民館	「よくある皮膚の病気」 講師:まつお皮膚科循環器科クリニック 松尾 圭三 氏	26人

令和4年度			
日時	場所	内容	参加人数
令和4年 6月30日(木)	玄界公民館 (オンライン)	「肩こり・腰痛と仲良くなろう」 講師:かつの整形外科リハビリテーション科 勝野 雷二郎 氏	14人
令和4年 7月27日(水)	壱岐南公民館	「認知症にならないために」 講師:村上華林堂病院脳神経内科 山田 猛 氏	11人
令和4年 9月8日(木)	周船寺公民館	「関節 SDGs~持続可能な関節を目指して」 講師:あさのひ整形外科クリニック 三好 敢太 氏	21人
令和4年 10月17日(月)	今宿公民館	「ACPについて」 講師:西区地域保健福祉課 「もしバナゲーム」 講師:ネットワーク西部	10人

※6月30日、7月27日、9月8日は西区医師会の「おしよ医くん講座」として実施

## (2)研修会等

### ① 多職種連携研修会

令和3年度			
日時	場所	内容	参加人数
令和3年 9月14日(火)	オンライン	「地域で始めるACP」 講師:白十字病院 看護部 がん看護専門看護師 浜谷 千枝子 氏	144人
令和3年 12月6日(月)	西市民センター	「弁護士から見たACPの課題」 講師:翼・篠木法律事務所 弁護士 篠木 潔 氏	126人
令和4年 3月10日(木)	オンライン	「私の考える在宅緩和ケア ～コロナ禍でも変わらないもの～」 講師:あおばクリニック 伊藤 大樹 氏	109人

令和4年度			
日時	場所	内容	参加人数
令和4年 8月30日(火)	オンライン	「福岡市の災害リスクと西日本豪雨災害の支援 活動と役割」 講師:安芸地区医師会 総合介護センター 板谷 裕美 氏	99人
令和4年 10月24日 (月)	西市民センター	「福岡市の地域包括ケアシステムの取組み ～ 過去・現在・未来～」 講師:地域包括ケア推進課 立石 英世 氏 医療法人社団誠仁会 在宅部 党 一浩 氏	130人

※各事業において意識的にACPにつながるテーマを選択し、普及啓発を行った。

## 虚弱高齢者の早期発見・早期支援

### ◆「西区版！見守りのポイントシート」(連携ツール)の普及啓発

(1)目的 虚弱高齢者や支援を要する高齢者の早期発見・支援につなぐため、連携ツールを作成し、普及に取り組む。

(2)内容 「見守りのポイントシート」(連携ツール)を配布先ごとに 8 種類作成。  
 [ 地域役員 / 医療専門職 / 金融機関 / スーパー・コンビニ / タクシー  
 公共交通機関 / 公民館 / 行政職員 ]

(3)実施方法 ①西区在宅リーダー、事業所ネットワーク代表者へ配布  
 ②いきいきセンターふくおかによる配布

期間	配付状況
R4年 4月	・民生委員・児童委員 3 校区
	・公民館 8 校区
～	・医療機関・歯科・薬局 6 か所
	・居宅介護支援事業所・介護事業所 4 か所
R4年 10月	・スーパー・コンビニ 9 か所
	・金融機関・郵便局 12 か所
	・公共交通機関 2 か所
	・警察(交番) 3 か所
	・その他:ふれあいサロン、町内会等 24 か所

## 健康づくり・介護予防等

[表1] 介護予防事業

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度 (4~12月)	
	回数等	参加者数	回数等	参加者数	回数等	参加者数
生き活き講座	93回	1,327人	111回	1,668人	143回	2,255人
認知症予防教室	8回	68人	14回	129人	9回	145人
認知症予防教室 『フォロー教室』	実施なし		実施なし		4回	24人
(委託事業) 地域リハビリテーション 活動支援事業	派遣中止		派遣中止		3回	36人
(委託事業) 介護予防教室	25回	171人	45回	286人	30回	221人
訪問型介護予防事業	実1人	延5人	実1人	延1人	実施なし	

[表2] よかトレ実践ステーション登録数

区分	令和2年度	令和3年度	令和4年度 (4~12月)
登録数	109か所(内19施設)	116か所(内25施設)	124か所(内30施設)

[表3] 認知症に関する市民、専門職の啓発

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度 (4~12月)	
	回数	参加者数 (サポーター 養成数)	回数	参加者数 (サポーター 養成数)	回数	参加者数 (サポーター 養成数)
認知症サポーター養成講座	9回	265人 (245人)	18回	425人 (376人)	18回	824人 (741人)
【再掲】ステップアップ講座	0回	0人	3回	39人	3回	47人
【再掲】小中学生を対象にした講座	3回	148人 (147人)	4回	318人 (315人)	6回	591人 (566人)

◆認知症啓発等

(1) 認知症講演会

令和3年度

実施日	対象	内容	参加者数
10月1日(金) (ハイブリッド)	市民	当事者や家族の思い、医療機関や家族の会との関わり ユマニチュードについて	29人
10月22日(金) (対面)	市民	認知症サポーター養成講座	15人

令和4年度

実施日	対象	内容	参加者数
9月28日(水) (ハイブリッド)	市民	認知症の基礎知識、認知症の治療などについて	31人
10月13日(木) (対面)	市民	認知症サポーター養成講座	18人

(2) 認知症キャラバン・メイト支援

令和3年度

【実施】・実行委員会 4回 ・交流会 1回

【内容】

- ・市民への認知症の普及啓発及び西区キャラバン・メイトの連携強化のため、フェイスブックを立ち上げた。
- ・令和4年1月に西区認知症キャラバン・メイトミニ交流会をオンラインで開催

令和4年度

【実施】・実行委員会 2回 ・交流会 1回

【内容】

- ・立ち上げたフェイスブックをより活用できるよう使い方等について検討実施
- ・令和5年1月に西区認知症キャラバン・メイト連絡会を開催

◆認知症初期集中支援推進事業

区分	令和2年度		令和3年度		令和4年度 (4~12月)	
	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数
認知症初期集中支援者数	27人	104回	27人	112回	22人	92回

## “オール西区”で取り組む地域包括ケアシステム

- 「支え合い・助け合い」の仕組みづくりに向け、各校区で高齢者地域支援会議を開催
- グループワーク等により地域の現状・課題を共有し、今後の取り組み等について意見を交換

### ＜取組み事例＞

#### 福重校区

- ◆ 「超高齢化を支えるわがまちサミット」〈R3年12月13日 / R4年3月15日〉
  - ・ 校区社協 福祉座談会として開催
  - ・ 出された意見等を「見える化」した「福重校区“つながる”プラン」を作成し、全戸配布

・ R4年度 ふれあいネットワーク数/9町（全町）（R3年度/2町→R4年度/9町）



#### 愛宕校区

- ◆ 「愛宕校区 わがまちサミット ～人と人の助け合い座談会～」〈R4年3月12日〉
  - ・ 「認知症サポーター養成講座 ステップアップ講座」（1月/3月実施）に引き続き、校区社協 福祉座談会として開催
  - ・ 上記会議等で出された意見をまとめ、校区内で共有

#### 愛宕校区「助け合い・支え合い」の取組み

～いつまでも安心して住み続けられるまちづくり～

一昨年2022年に開催した第204回に続いて、令和3年度、愛宕校区社会福祉協議会は、「認知症サポーター養成講座」を開催し、認知症への理解を深めるとともに、認知症の「現状」「課題」などについて話し合いを行いました。

◆認知症サポーター養成講座 1/22 (木)・3/12 (木) 3/12 (木)

◆わがまちサミット

みなさんのご意見等について、校区全体で共有するとともに、令和2年から続く「コロナ禍」での「新しい生活様式」に合わせた今後の活動について考え、自主活動、社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、若人クラブ、自治会など各団体のそれぞれの活動を話し、誰かが頼られた地域でいつまでも暮らし続けられることが、愛宕校区の「助け合い・支え合い」のまちづくりを画定していきます。ご協力をお願いします。



愛宕校区社会福祉協議会  
令和4年5月

**おしゃべり声かけしよう！**

- 笑顔で声かけ
- 一人も孤立させない声かけ
- 言葉が通じない声かけ
- 認知症の方を見かけたら「やさしく」「ゆっくり」「笑顔」で声をかける
- 積極的に話をしてみてください

**つながろう！つながりよう！**

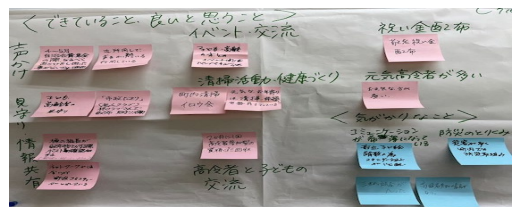
- 町内内のネットワーク構築、継続ネットワークの早期実現を
- 開いた時の相談窓口・問合せ先を知り、解決につなげよう
- わからぬで情報提供、市政だよりの配布等で情報収集
- 寄り合いをたくさんつくろう

**体を動かそう！**

- 町内ウォーキング大会
- 緑のラジオ体操
- お丹、演習、体操
- 自分の体力を知る機会をつくる

**集える場所をつくろう！**

- 町内にカフェ、サロンを
- 空き家活用が
- こどもと高齢者とのイベント開催
- 集って楽しめる集、イベント、地域おこしを推進し







## ②高齢者の相談状況等

資料2

[表1] 相談件数

(単位：件)

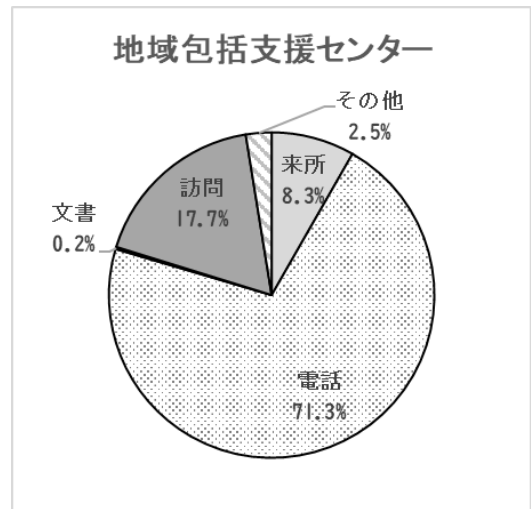
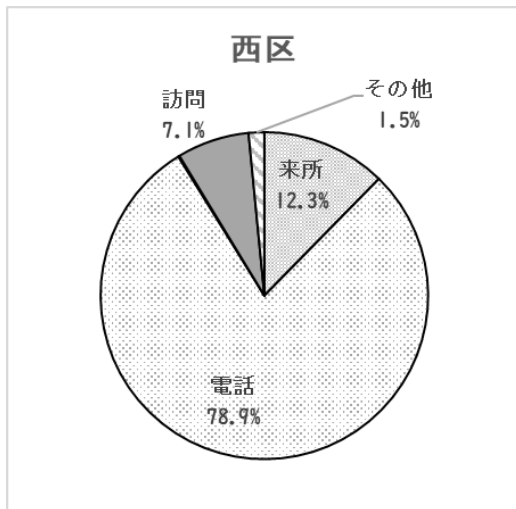
	令和2年度		令和3年度		令和4年度 (12月末現在)	
	実数	延数	実数	延数	実数	延数
西区総数	3,709	24,664	4,027	27,621	3,444	21,269
福岡市総数	25,015	176,010	27,041	189,029	23,404	155,993

[図1] 令和4年度相談方法

<西区地域保健福祉課と地域包括支援センターとの比較>

(西区地域保健福祉課) n=2,465

(西第1~8地域包括支援センター) n=18,804

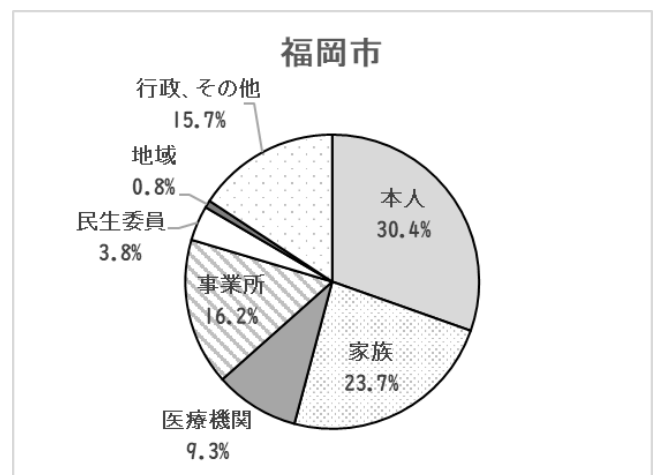
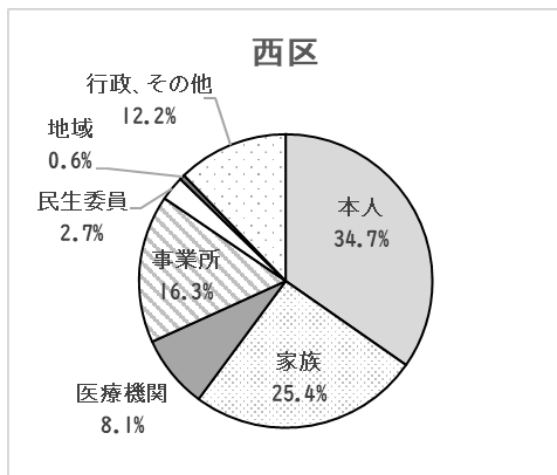


[図2] 令和4年度相談者の内訳

<西区と福岡市との比較>

(西区) n=21,269

(福岡市) n=155,993



[表2] 相談内容（第1主訴）延件数

(単位：件)

	令和2年度		令和3年度		令和4年度 (12月末現在)	
	西区	福岡市	西区	福岡市	西区	福岡市
保健	3,869	27,925	4,981	31,673	3,971	28,786
福祉	1,224	7,625	1,155	8,290	476	4,951
医療	2,027	14,945	2,206	17,020	1,825	13,948
介護保険	12,235	85,633	14,705	93,927	11,290	76,929
権利擁護	2,028	17,625	1,803	19,540	1,839	16,281
その他※	3,280	22,255	2,771	18,579	1,868	15,098

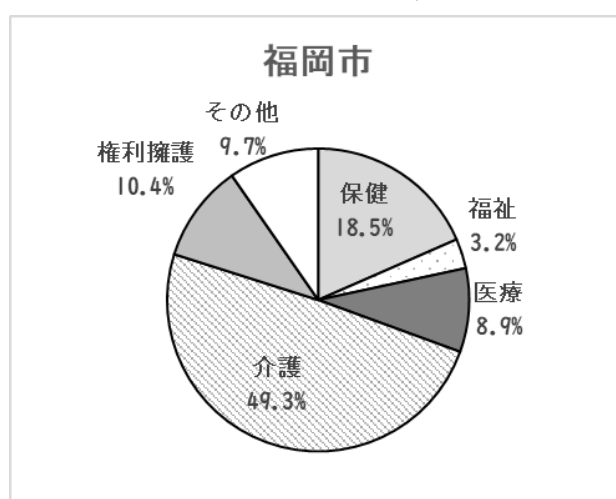
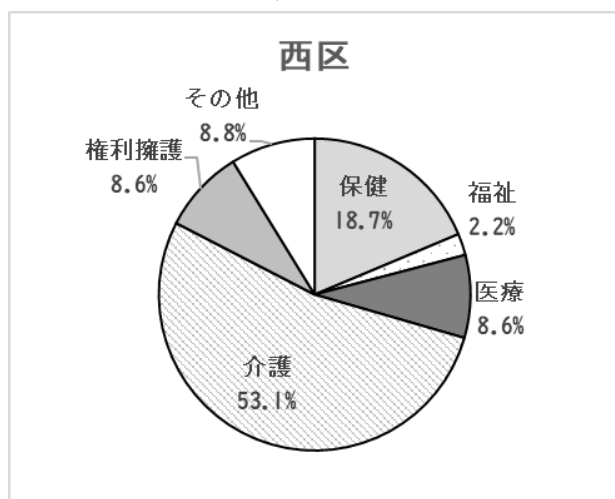
※その他：家族関係、安否確認、民間サービス、住宅など

[図3] 令和4年度 相談内容（第1主訴）

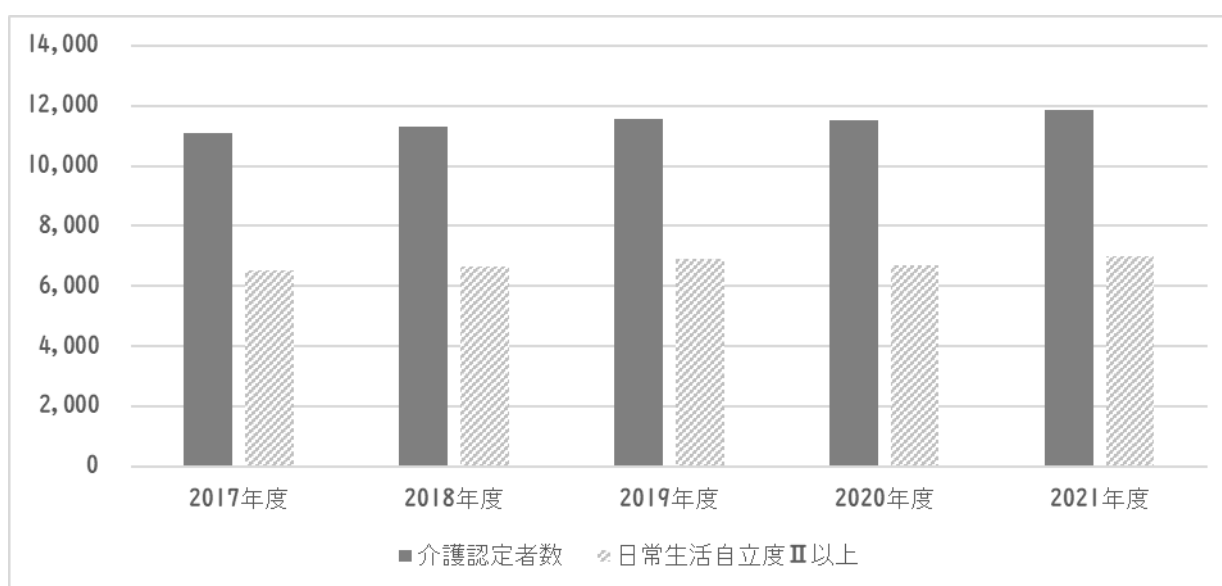
<西区と福岡市との比較>

(西区) n=21,269

(福岡市) n=155,993



[図4] 介護認定者数に占める認知症の方(※)の推移(令和4年12月ケアビジョン)



※認知症日常生活自立度Ⅱ以上：日常生活に支障を来すような症状・行動や意思疎通の困難さがみられたり、著しい精神症状等で専門医療を要する状態。

[表3] 権利擁護に関する相談内容（重複あり）

（単位：件）

	令和2年度		令和3年度		令和4年度 (12月末現在)	
	西区	福岡市	西区	福岡市	西区	福岡市
虐待	667	6,989	682	9,983	988	9,234
セルフネグレクト	10	219	1	239	5	218
DV、家庭内暴力	173	1,510	142	1,452	241	1,185
金銭（財産）管理	326	3,359	593	4,854	393	3,511
金融・消費・ 契約問題	173	982	113	1,400	119	1,008
成年後見制度	485	2,820	439	3,595	307	2,916
制度に関すること (成年後見制度以外)	24	199	70	419	37	229
保護（虐待、DV、家 庭内暴力等以外）	20	196	8	144	12	194
その他	150	1,351	180	1,586	187	1,560
計	2,028	17,625	2,228	23,672	2,289	20,055

虐待の内訳 (複数選択可)	令和2年度		令和3年度		令和4年度 (12月末現在)		
	西区	福岡市	西区	福岡市	西区	福岡市	
内 訳	身体的虐待	489	4,814	323	5,066	390	5,032
	放任・放棄	85	1,428	122	1,728	163	1,494
	心理的虐待	284	1,916	122	1,995	177	1,879
	性的虐待	2	10	0	11	1	8
	経済的虐待	74	763	76	1,315	159	1,358
計	934	8,931	682	10,115	890	9,771	

[表4] 高齢者虐待の相談・虐待認定数

（単位：件）

	令和2年度		令和3年度		令和4年度 (9月末現在)	【参考】令和3年 度(9月末現在)
	西 区	福岡市	西 区	福岡市	西区	西区
相談数	70	311	59	347	42	29
虐待認定数	12	86	9	113	7	4

**[表 5] 高齢者虐待の相談者数**

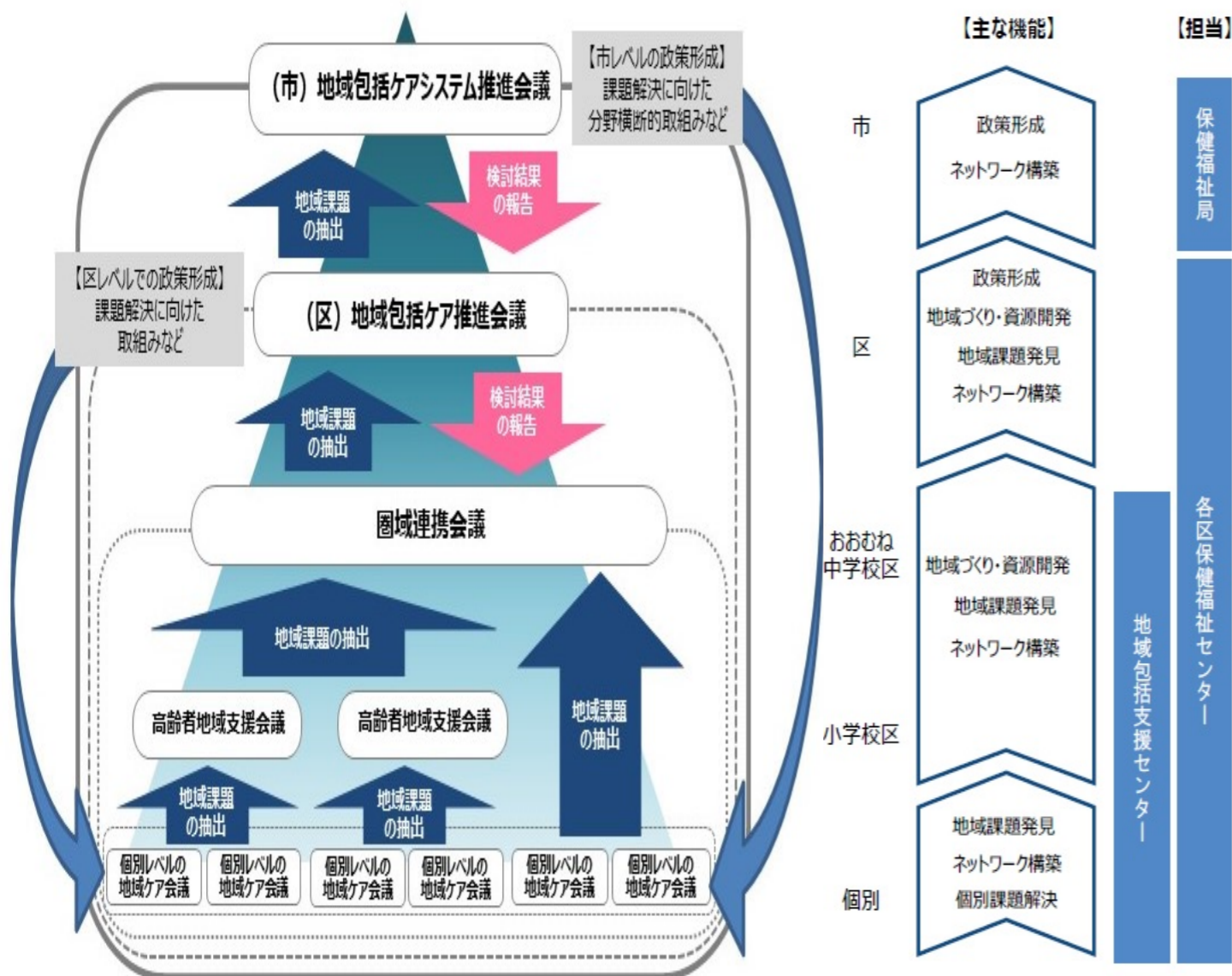
(単位：人)

	令和2年度		令和3年度		令和4年度 (9月末現在)
	西 区	福岡市	西 区	福岡市	西区
本人	3	7	1	13	5
親族	3	15	5	24	3
虐待者自身	1	10	0	1	0
警察署	16	19	4	18	7
介護保険関係事業者	24	135	33	160	23
行政職員等	8	20	4	24	1
民生委員等地域役員	3	17	1	16	1
その他(病院等)	4	25	6	44	2
計	62	248	54	300	42

### ③地域ケア会議開催状況

#### ◆開催状況<区レベル>

会議		3年度	4年度
区地域包括ケア推進会議		令和4年2月	令和5年2月
部会	在宅医療・介護部会	令和3年12月	令和4年12月
	権利擁護部会	令和3年11月	令和4年12月
	生活支援・介護予防部会	令和3年12月	令和4年11月



#### ◆校区別開催状況

圏域	西区	圏域連携会議		高齢者地域支援会議		個別支援会議 ※( )内は 介護予防型個別支援会議	
		3年度	4年度	3年度	4年度	3年度	4年度
圏域	西区	3	2	10	11	42(15)	44(14)
1	愛宕	1	0	1	0	3	5(1)
	愛宕浜			0	1	1(1)	2(1)
	小呂			0	0	0	1
	姪北			0	1	5	0
	能古			0	1	0	3
2	内浜	0	0	0	0	1(1)	1
	玄界			0	0	0	1
	福重			3	2	3	0
3	姪浜	1	1	0	0	1(1)	4(1)
	城原			0	0	3(1)	2
4	西陵	0	0	1	0	5(1)	5(1)
	吉岐南			0	1	1(1)	2(1)
5	金武	1	1	0	1	2(2)	0
	今宿			0	0	1(1)	1(1)
	玄洋			0	0	3	1(1)
	北崎			0	0	0	2
6	今津	0	0	1	1	1(1)	2(1)
	石丸			0	0	2(1)	3
7	下山門	0	0	0	0	1(1)	1(1)
	吉岐			2	0	4(1)	1(1)
8	吉岐東	0	0	0	2	1(1)	4(2)
	周船寺			2	1	1	1
	元岡			0	0	2(1)	0
	西都						

4年度は12月末現在

#### 圏域連携会議

- ・圏域における多種連携のためのネットワーク構築や、個別支援会議で抽出された地域課題を検討
- ・事例検討を通じ、専門職等の質の向上を図る

#### 高齢者地域支援会議

- ・地域課題の解決を図るため、校区等における地域の共助力を醸成するネットワークを構築
- ・個別課題の蓄積等により地域課題を発見し、解決に向けた取り組み等について検討

#### 個別支援会議

- ・事例に応じた多職種による個別の連絡調整とタイムリーな支援を検討

# ◆専門部会の開催状況

資料3-2

(令和4年度)

## (1-1)在宅医療・介護部会

開催日	内 容	出席者数
令和4年12月19日	1 地域包括ケアシステムの推進 ①地域ケア会議の開催状況 ②西区における在宅医療・介護に関する取組みについて 2 意見交換 「各団体の取組み状況について」 3 事例検討 「複合課題への対応について」	17人
【主な意見】 ●ACPIは大きなテーマ。入院時のご家族や介護の方々からの情報や、患者との日常的な会話や表情から、本人の意志を汲み取る等の関わりを大事にしている。 ●入院しても面会ができない状況がある。大事な決定をしないといけない場合、本人の意向を反映するために、面接やオンラインを活用している。 ●軽度の認知症の方の早期発見のため認知症対応力向上研修を実施している。 【令和5年度の目標】 ①ACPや意思決定支援の取組みの推進。 ②キーパーソン不在や8050問題等、複合的な課題を抱えた高齢者への支援力向上。		

## (1-2)権利擁護部会

開催日	内 容	出席者数
令和4年12月12日	1 地域包括ケアアクションプラン2021～2026、西区の高齢者相談状況について（報告） 2 意見交換 「複合課題への対応～8050問題への関わりについて」 ①8050問題事案に関わった経験等について ②各団体での8050問題に関する取組みについて	18人
【主な意見】 ●地域包括ケアシステムで地域支援を位置づけているのであれば、個人情報保護もあるが、必要な情報は地域に提供すべきではないか。 ●地域活動の中で8050問題に気が付くことがある。 ●地域の横のつながりが無いと感じる。それぞれの介護事業所、ケアマネージャー、よかよかルームなど個別に課題に対応しているがつながっていない。他業種との顔合わせの機会が必要ではないか。 ●（8050問題の解決は）団体だけで解決できないため、各支援者や地域で協力する必要がある。 ●当事者たちに啓発するのは難しいと感じた。 ●本人達と信頼関係を作るのに時間がかかる。「引きこもり」と言うが本人は特に困っていない。親が相談しても本人が困っていないため相談された側が困っている状況。 ●8050問題は世帯の問題。高齢者部門だけが話し合うには限界がある。行政が取り組むべき課題。勉強会や研修をしてもらいたい。		

## (1-3)生活支援・介護予防部会

開催日	内 容	出席者数
令和4年11月16日	1 地域包括ケアの推進について（報告） ①地域ケア会議の開催状況 ②校区の取組み ③健康づくり・介護予防 ④生活支援・介護予防<社会福祉協議会> ⑤事業所ネットワークの活動状況 2 意見交換 「地域課題について」 ～各種会議で出された意見等から見えてきた課題～	19人
【主な意見】 ●いきいきセンターの周知を徹底してやっており、センターを通じた相談も多い。 ●「外に出ない人へのアプローチ」として声かけは大切。 ●地域役員等の「成り手不足」は大きな課題。団体の名称変更やPR旗の制作等、参加者増に向けて様々な工夫をしている。グラウンドゴルフを毎日やっているが来れない人の身体機能が懸念される。 ●事業所ネットワーク等と連携しながら認知症予防や健康づくり等の啓発講座を実施。 ●コロナ禍の前は「出ない人をどう誘うか」だったが、今は「外に出るきっかけがなくなってしまっている人」にどうきっかけをつくるかが課題。 ●「担い手不足」については、企業等の現役世代も同様に苦労している。 ●地域活動は各町内組長まで周知することが大事。気付きの目が増えて力になる。 ●ボランティアも高齢化しており、「担い手」の確保について模索中である。		

## ◆ 圏域連携会議の開催状況

資料3-3

### 【参加者等】

医師、歯科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、薬剤師、訪問看護師、看護師、医療ソーシャルワーカー、（管理）栄養士、歯科衛生士、介護支援専門員、介護サービス事業所、自治協議会、民生委員・児童委員、その他地域団体、区基幹型相談支援センター、区社協事務所 等

### (令和3年度)

事務局	日時	会場	参加人数	内容等
西第5	11月15日（月） 14：30～15：30	さいとぴあ	44人	介護、福祉の制度やサービス内容等を再確認し、コロナ禍での民生委員、ケアマネジャー、関係機関等による連携について考える。
西第3	12月20日（月） 14：00～15：30	書面報告	32人	医療機関、薬局、居宅介護支援事業所へ服薬管理に関する事前アンケートを実施。アンケート集計結果や課題を各機関に返却。課題については各機関に改善策に対して意見を求め、共有した。
西第1	12月21日（火） 14：30～15：40	愛宕公民館	32人	<ul style="list-style-type: none"> <li>校区の状況について</li> <li>地域での見守りについて</li> <li>関係機関より事業内容説明</li> <li>意見交換</li> </ul>

### (令和4年度)

事務局	日時	会場	参加人数	内容等
西第3	6月16日（木） 14：00～16：00	Fコープ生活協同組合上山門店組合員ホール	22人	<ul style="list-style-type: none"> <li>事例検討「独居・認知力低下がある方の内服管理の支援」</li> <li>連携について検討</li> <li>事業所ネットワークについて説明</li> </ul>
西第5	9月13日（火） 15：00～16：30	さいとぴあ	31人	<ul style="list-style-type: none"> <li>福岡市ひきこもり成年地域支援センターの活動報告</li> <li>事例検討</li> </ul>

### 〈会議で出された意見・課題等〉

- ・自ら社会との関わりを拒否し、セルフネグレクトになり孤立化しているケースが増えている。
- ・複合問題のある家族への支援について、関係者、支援者で学んでいく必要がある。
- ・関係機関（病院、薬局、居宅介護支援事業所）が連携が円滑になるためのツール(担当者を記載したカード等)の作成を検討する。



## ◆高齢者地域支援会議の開催状況

資料3-4

【参加者等】 自治協議会、民生委員・児童委員、校区社会福祉協議会、その他地域団体、  
区社協事務所、いきいきセンター等

### (令和3年度)

事務局	日時	会場	参加者数	内容等
区 地域保健福祉課	7月27日 19:00~20:00	福重公民館	23人	「校区福祉座談会」 ・事業計画について ・校区の現状等 ・意見交換
地域包括支援 センター	9月24日 13:00~13:45	吉岐団地43 棟集会所	13人	「介護保険サービス利用状況を知ろう」 ・吉岐東校区における介護認定状況 ・要支援者の介護保険サービス利用状況
区 地域保健福祉課	10月25日 10:30~11:50	村上華林堂 病院	18人	「地域包括ケア吉岐南モデル準備室会議」 ・てつだい隊の活動状況 ・地域カフェ”ふら~っとカフェ”の再開 ・準備室から本格活動へのロードマップ
地域包括支援 センター	10月28日 13:00~14:00	元岡公民館	20人	「認知症の人を地域で支える」 ・見守りネットワーク事業 ・校区の状況及び民生委員の活動について
区 地域保健福祉課	12月15日 19:00~20:30	福重公民館	35人	「超高齢化を支えるわがまちサミット」 ・グループワーク ・相談・支援状況報告 ・意見交換
地域包括支援 センター	12月23日 14:10~15:40	石丸公民館	28人	「住み慣れた地域で『つながる』ために」 ・校区概況、社会資源紹介 ・グループワーク、意見交換 ・関係機関紹介
地域包括支援 センター	12月23日 13:00~14:00	元岡公民館	26人	「民生委員・児童委員とケアマネジャーとの意 見交換会~認知症の人を地域で支えていくため に必要なことについて検討~」 ・相談・支援状況報告 ・事例紹介、グループワーク
地域包括支援 センター	2月18日 10:00~11:30	吉岐東公民館	9人	第2回「介護保険サービス利用状況を知ろう」 ・サービスが必要となった原因、状況 ・利用しているサービス内容 等
区 地域保健福祉課	3月12日 19:00~20:30	愛宕公民館	24人	愛宕校区「わがまちサミット」 ・高齢者相談状況等 ・ふれあいネットワーク ・グループワーク
区 地域保健福祉課	3月15日 19:00~20:30	福重公民館	30人	「超高齢化を支えるわがまちサミットⅡ」 ・今年度取組みの振り返り ・(防災)事例紹介 ・介護予防/健康づくり ・グループワーク

#### 〈会議で出された意見・課題等〉

- ・地域活動は休止しているが、できることから校区独自で福祉活動を行っていく必要がある。
- ・ふれあいサロンのような活動を続けることは大事。外に出る機会が減っている。
- ・団地の建替えに伴い、集会所の新設あり。高齢者の集いの場として活用を検討したい。
- ・要支援状態にならないために、今から取り組む必要がある。
- ・介護保険制度や、相談窓口である「いきいきセンター」を知らない住民もいる。市民等への周知が必要。
- ・介護サービスの利用は、第三者の見守りにもつながる。
- ・つながりづくりの大切さを感じた。
- ・ネットワークづくりは重要だが難しい課題。

## (令和4年度)

事務局	日時	会場	参加者数	内容等
区 地域保健福祉課	5月15日 10:00~12:00	愛宕浜公民館	36人	ふれあいネットワーク研修会 ・避難行動要支援者個別計画作成について ・ふれあいネットワークについて
地域包括支援 センター	5月24日 14:30~16:00	姪北公民館	20人	民生委員と高齢者に関する機関との検討会 ・各関係機関の紹介 ・事例紹介、意見交換
地域包括支援 センター	5月26日 14:00~15:00	石丸公民館	19人	石丸校区民生委員研修 ・事例紹介 ・グループワーク
区 地域保健福祉課	5月28日 13:00~15:00	周船寺公民館	21人	周船寺校区地域会議 ・地域包括ケアシステムの推進について ・グループワーク
区 地域保健福祉課	7月25日 10:30~11:30	能古公民館	23人	能古校区高齢者支援会議 ・能古校区アンケートについて ・フレイル予防について ・買い物支援について ・意見交換
区 地域保健福祉課	8月23日 19:00~20:30	福重公民館	30人	福重校区社協 福祉座談会 ・福重校区の取組みについて ・防災の取組みについて ・グループワーク
区 地域保健福祉課	9月16日 10:30~11:30	金武公民館	33人	金武校区社協 理事会 ・防災の取組み ・今年度の取組み（意見交換）
区 地域保健福祉課	10月24日 14:00~15:50	周船寺公民館	43人	周船寺校区/西都校区 「超高齢化を支えるわがまちサミット」 ・認知症講話 ・認知症啓発映画視聴
区 地域保健福祉課	11月22日 19:00~20:30	福重公民館	24人	福重校区社協 福祉座談会 ・地域の「見守りの仕組み」を活かした防災の取組み ・意見交換
地域包括支援 センター	12月12日	元岡公民館	29人	「新任民生委員と関係機関との交流会」
区 地域保健福祉課	12月13日 14:00~5:40	今宿公民館	29人	今宿校区社協 福祉協力員研修 ・認知症講話 ・認知症啓発映画視聴

### <会議で出された意見・課題等>

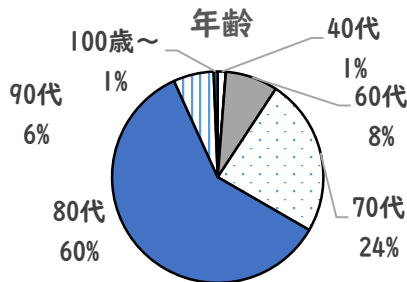
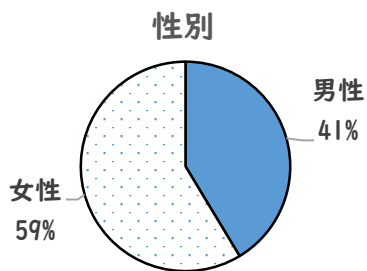
- ・要援護者支援は自治会単位。校区社協のつながる活動を活かしながら協力できるのではないかな。
- ・災害が起こった後ではなく起こる前のPR、減災・防災のPRも必要。
- ・コロナ禍でも避難訓練や声掛け訓練、青パト、ふれあいサロンなどでできていることもある。
- ・大学生との交流や3世代交流会の開催、気軽に誰でも立ち寄れる居場所づくりに取り組んでいきたい。
- ・介護保険サービス自体を知らない人が多い。機会を捉え周知を図っていく必要がある。
- ・関わりを拒否される人、地域活動に参加されない人への情報発信等をどうするか。
- ・認知症の人こそフォローが必要。複数人での対応が必要。
- ・実際の災害時に計画通りできるかという意見もある。個人それぞれの自覚、自助意識の促進が必要。
- ・啓発動画を視聴して、見守ることの大切さを学んだ。
- ・8050問題等も増えている。問題が複合化しており、それぞれに支援が必要。

◆個別支援会議の開催状況について（令和元年度から令和4年12月末）

資料3-5

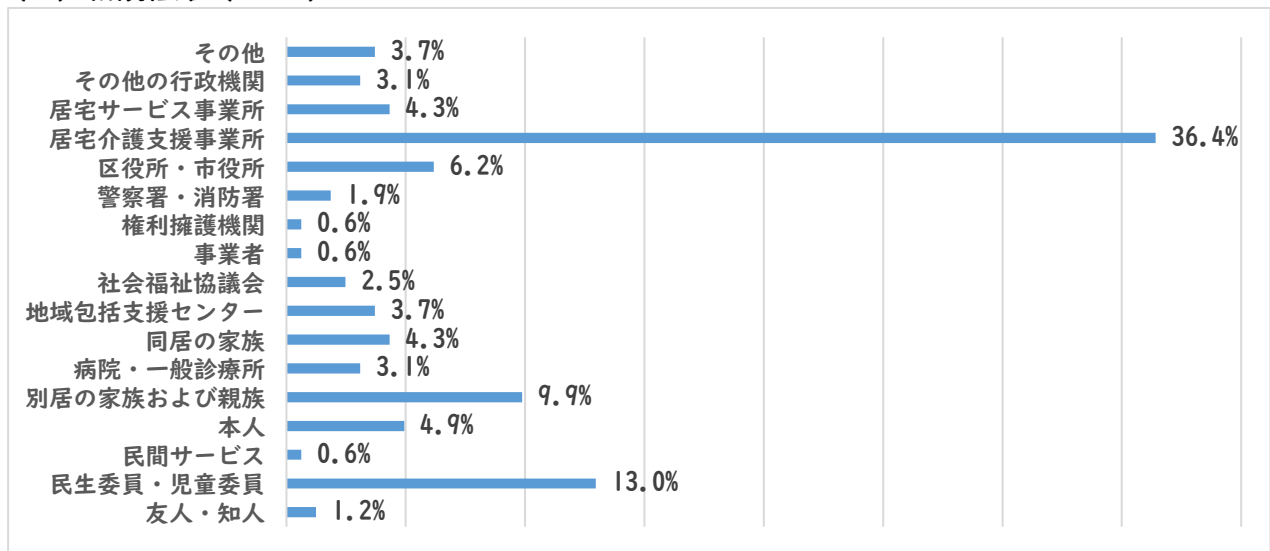
(1) 対象者の性別及び年齢 (N=162)

年度	総数	性別		年齢						
		男性	女性	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100歳～
令和元年度	58	25	33	0	0	7	17	28	6	0
令和2年度	47	18	29	1	0	3	8	33	2	0
令和3年度	27	14	13	0	0	1	8	17	1	0
令和4年度12月末	30	10	20	1	0	2	6	19	1	1
計	162	67	95	2	0	13	39	97	10	1

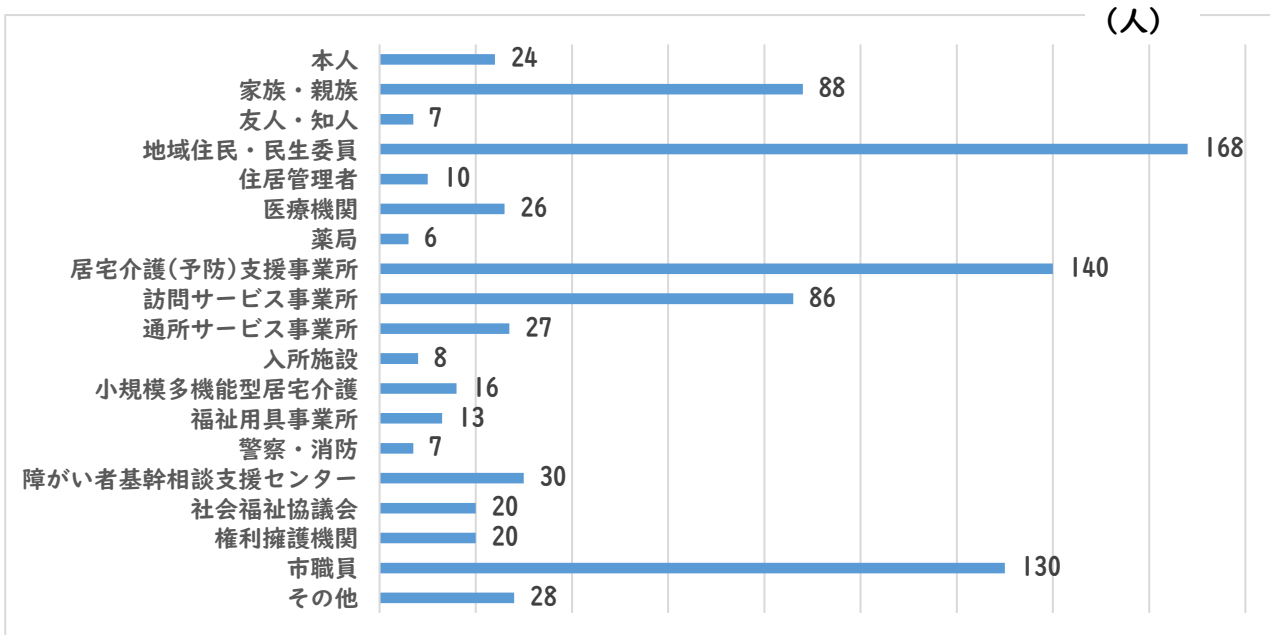


・女性の割合が男性より多い。  
 ・80代の割合が最も多く、ついで70代が多い。

(2) 相談経路 (N=162)

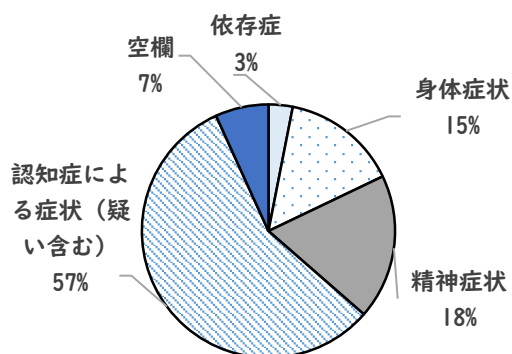


(3) 出席者 ※主催のいきいきセンター職員のみ



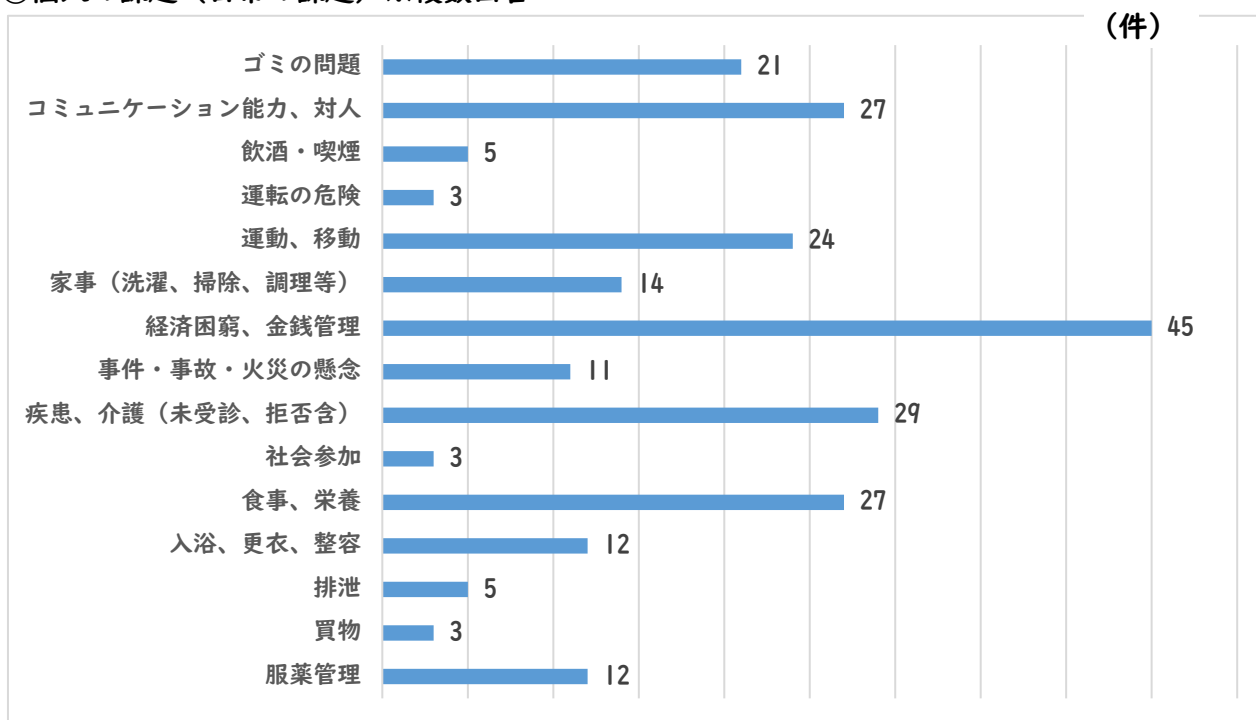
#### (4) 開催目的

##### ①個人の課題（症状）

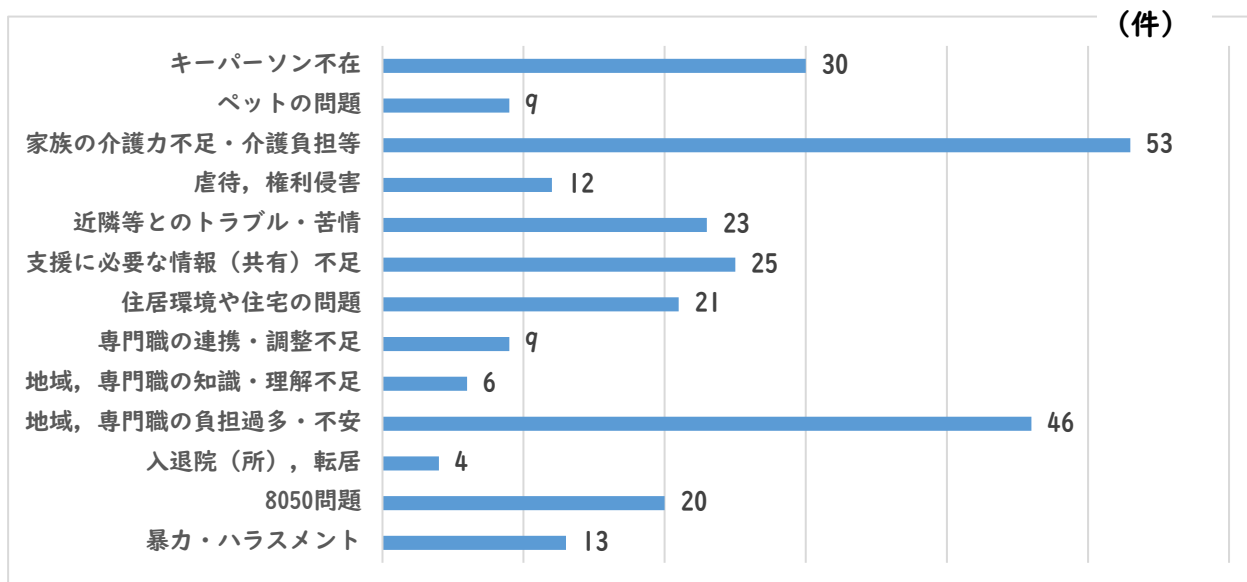


・個人の課題（症状）は、「認知症による症状の割合」が最も多い。  
 ・個人の課題（日常の課題）は、「経済困窮、金銭管理」が最も多い。  
 ・個人の課題（家族・地域・専門職等）は、「家族の介護力不足、介護負担」等が多い。  
 ・全事例(162件)のなかで8050問題を抱える事例が12.3%(20件)となっている。8050問題の事例増加により、出席者で基幹障がい者支援センターの参加が増えている。

##### ②個人の課題（日常の課題）※複数回答



##### ③個人の課題（家族・地域・専門職等）の課題 ※複数回答



### (3) 意見交換

## テーマ「高齢者の社会的孤立の防止について ～孤立しない / 孤立させない～」

資料4

#### <各団体の取組み等>

団体名	すでに取り組んでいること	今後の課題
西消防署	老人クラブや高齢者の個人、団体等に対し、継続的に救命講習などを実施。	消防局としては、消防局の取り組みや活動として、高齢者の社会的孤立の防止という観点で取り組むことは難しい。
西区自治協議会	(目的) 高齢者の方が家から一足でも足を運んでもらえたらと思っている。 ・校区では、月1回「ミニカフェ」を開催 ・各町内では「サロン」を開催	カフェ、サロンを行なうリーダーが高齢化している。
西区衛生連合会	社会福祉協議会が実施しているサロン活動が、課題に対して大変有効な事業であると感じている。	・多様なサロンがあり、社会福祉協議会の事業対象でないサロンもある。全てのサロンが事業の対象にできるよう、検討していく必要があるように思う。
西区民生委員児童委員協議会	1. ラジオ体操 毎日、7時は運動公園(冬はお休み) 9時50分・12時50分の2回は公民館で行われている。公民館まで歩いてくることが健康につながっている、と皆さんに言われています。 2. 毎月第三日曜日は「一斉清掃日」です 75歳以上の高齢者は清掃免除の自治会が多いが参加する方は多い。 短い時間でも人と会うことや話をすることで気持ちが休まる。安否確認にもつながっている。 3. ふれあいネットワーク(社協)の活動の一つとして、暑中見舞いと年賀でお便りとマスクを年2回配布。お礼の電話や年賀状もいただきます。 4. 小学校、中学校、保育園、郵便局に民生委員児童委員の名簿を配布し連携をとっている。又、広報紙を通じて校区全体に連絡先を公表している。	・団地から高層マンションみたいになってしまった。コロナ禍でサロンの開催もなく、部屋に入るとなかなか外に出なくなり、閉じこもり気味になっている。 ・建替えが進んでいく中で生活環境が変わり、作り上げたコミュニケーションも見直しを余儀なくされている。追いつかない状況。

団体名	すでに取り組んでいること	今後の課題
<p>西区老人クラブ 連合会</p>	<p>1.各単位クラブに於いては、事業活動の一つとして友愛訪問活動がある。月別に会員宅を訪問し、健康状態を把握し、クラブへの活動参加を促している。</p> <p>2.老人クラブは、イベントを計画して高齢者への外出機会をはかる。例えば、ふれあい広場・裁縫クラブ・地域の自然観察会等</p> <p>3.自治協議会や社会福祉協議会等のイベントには、積極的に参加を呼び掛ける。</p> <p>4.公民館の高齢者講座へ参加を呼び掛ける。</p>	<p>・超高齢化に伴う社会的な孤立化は問題である。</p> <p>・核家族化が進み、長寿化に伴い寡婦(夫)期間も長期化している。</p> <p>・その中で、人間関係が希薄になり、結果として高齢者に孤立状態に陥る人が増えてくる。</p> <p>・特に、新型コロナウイルス感染症拡大の中、家に閉じこもる人が増えてきた。</p> <p>・外出機会を失いフレイル状態になり、うつ状態になる事が、懸念される。</p>
<p>認知症の人と家族の会</p>	<p>電話相談でお話をじっくりとお聞きする。必要時は関係機関や認知症カフェ等を紹介したり、認知症の人と家族の会の「つどい」への参加をご案内したりする。</p>	<p>感染が広まる時期にデイサービスが利用しにくい状況になると、介護者の行動が制限されやすく、補う体制が必要だと感じている。</p>
<p>福岡市歯科医師会</p>	<p>・認知症高齢者では口腔清掃状態が不良であり、喪失歯数が多い。近年、歯周病や歯周病原細菌と認知機能との関連が報告されている。</p> <p>・かかりつけ歯科医師として、継続的な関係を持つ患者さんの些細な変化が、認知症の兆しであるか見極めるために認知症対応能力研修会を行い、知識と判断力の向上に努めている。</p>	<p>認知症の疑いや社会的孤立の恐れがある患者さんの情報をどのように他職種と共有し連携を図りサポートのレベルを上げれば良いか、また個人情報の扱いに問題が無いかなどが課題である。</p>
<p>西区校区社協会長 会</p>	<p>コロナ禍は4年目に入り、生活スタイルが大きく変わった今が日常になってしまいました。社協では「離れてつながる」を当面の目標にしていますが、年賀状を送付したり、各町のふれあいネットワークでそれとなく見守ることぐらいしか出来てないのが現状です。</p>	<p>・家にこもる生活に慣れてしまって、コロナが終息してもなかなか元の生活に戻れない人が出てくるのではないかな</p> <p>・人との接触が少なくなると、認知機能が低下する人が増える可能性がある。</p> <p>・近年、高齢者のひとり暮らしの方が増え(特に女性)校区としてどうすれば良いのか苦慮している。</p> <p>・サービスを紹介しても「迷惑はかけられません」災害時には「私は大丈夫です」と避難されない場合にどのように対応するか。</p>

団体名	すでに取り組んでいること	今後の課題
<p style="text-align: center;"><b>福岡市 老人福祉施設 協議会</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.短期入所(ショート)にて、周期的な利用を勧めている(週末とか平日決まった曜日で)。</li> <li>2.長期利用されていないご利用者へ、ケアマネさんと通して利用を声かけてもらっている。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭内の問題など、踏み込めない状況がある。</li> <li>・キーパーソンがいない。</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>福岡市 西区医師会</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.訪問診療(在宅医療)の推進</li> <li>2.在宅医と在宅関係機関の連携促進</li> <li>3.認知症疾患センター、認知症サポート医・相談医の診療ネットワーク</li> <li>4.認知症への正しい理解の啓発</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅患者情報の一元化・共有</li> <li>・認知症患者情報の一元化・共有</li> <li>・ロコモティブ症候群予防の啓発</li> </ul>
<p style="text-align: center;"><b>福岡県社会福祉士 会</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所での運営推進会議で民生委員さんとの情報交換をしています</li> <li>・地域の居場所づくりとして広場を定期的(2か月に1回)開催しています</li> <li>・地域の事業所ネットワーク(介護ネットワーク西部)に加入して活動しています</li> </ul>	<p>校区単位、圏域単位で各団体が集まって話し合う機会が無い。(特に地域住民の団体と介護・医療の団体がつながらないこと)</p>
<p style="text-align: center;"><b>福岡市薬剤師会</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.よかトレ実践ステーション増設</li> <li>2.後期高齢者訪問服薬指導事業(福岡県薬剤師会・福岡県後期高齢者連合同事業)</li> <li>3.圏域地域活動</li> <li>4.居宅療養管理指導</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薬局門前の医療機関の診療科により、薬局に来る患者の年齢が異なる為、高齢者と関わる薬局に限られる。</li> <li>・地域との関り方の啓発活動の工夫が必要。</li> <li>・研修会や交流会など多職種連携を行いたいが、各々の可能な日時の調整が難しいと感じている。</li> <li>・高齢者本人や家族の拒否がある場合。</li> <li>・薬局のマンパワー不足。</li> </ul>

団体名	すでに取り組んでいること	今後の課題
福岡県看護協会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民生委員の方、近所の方にも気にかけていただけるようお声掛けをしたケースもあるが、どこまで踏み込んでいいものか迷うとの意見があった。(訪看)</li> <li>・行政・包括支援センターと、主にソーシャルワーカーやケアマネージャーが連携を図っている。必要時には後見人制度の調整を行っている。(病院)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在お元気な方も「いつ自分も介護が必要な状態になるか不安」と言われる方が多い。元気な内に、サービスの内容や地域でのサポート体制についての情報を得る場への参加が、もっと気軽に出来ればいいと感じる。行政と地域の方の懸け橋となれるような存在でありたいと思う。(訪看)</li> <li>・単身高齢者や認知症高齢者のなかで団塊の世代だけとは限らず、集団でいることを好まない自己主張が強い方などに対する見守り体制の構築は非常に難しいと感じる。(病院)</li> <li>・実際、看護師が支援の方法を想像できていないことが多く、指導する看護師も多くないため、看護が患者の生活を支援するための手法を理解する、経験する機会を作る必要がある。時間をかけて、事例検討など施設単位ではなく地域と共に話し合えることで想像できるようになるといいなど考えている。(病院)</li> </ul>
福岡県弁護士会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 後見関係名簿の整備及び後見人等推薦事業 後見人等候補者推薦名簿を整備し、家庭裁判所その他の団体(中核機関等)からの依頼に応じて成年後見人等候補者を推薦する事業を行っている。</li> <li>2. 「あいゆう電話相談」の実施 「あいゆう電話相談」(無料相談)を実施し、高齢者及びその支援者の方への法的サービスの提供に取り組んでいる。「あいゆう電話相談」では、電話相談において引き続き面談相談を実施する必要があると判断された場合には、面談相談へと繋ぐ手続きとなっている。相談件数は月平均120件であり、電話相談を機に在宅のご高齢者への出張面談相談に繋がるケースも多い。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後見人に選任された後、関係機関との連携体制が整っていないために、後見人が単独で困難案件に取り組むケースがある。</li> <li>・後見人候補者及びあいゆう相談担当者の人材確保及び養成。</li> </ul>
西区公民館館長会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自治体でのふれあいネットワーク活動での見守り</li> <li>・公民館での講座やサークルへの参加促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふれあいネットワークは、すべての自治会で組織されていない。</li> <li>・ふれあいネットワークの活動者が個人の熱意に頼られており、活動の継続性が不安である。また、コロナ禍のため会議が開催しづらい。</li> </ul>



団体名	すでに取り組んでいること	今後の課題
西警察署	<p>あらゆる警察活動を通じて、高齢者の社会的孤立のほか、認知症高齢者、高齢者虐待、そのほか問題のある高齢者世帯を把握した際は、地域保健福祉課への通報、いきいきセンターへの情報提供により行政と連携を図るとともに、親族や病院などに対応を働きかけるなどしている。</p>	<p>一昨年、福岡市西区において、中年の息子が高齢の両親を殺害するという痛ましい事件が起き、全国的にも大きく報道された。</p> <p>この事件の家族構成は、いわゆる「8050問題」の構図に重なるが、社会的孤立により問題をはらんだ家族が潜在化していることについて懸念している。</p> <p>また、全国的にも社会問題となっている高齢者等を狙ったニセ電話詐欺について、西区における被害も著しく増加しており、高齢者の社会的孤立により、注意喚起や広報啓発が行き届かず、家族等に相談されることがないまま被害が発生してしまうという状況について課題だと感じている。</p>